

病床削減が地域医療構想の実現に資するものであることの説明資料

病院等の名称	高杉レディースクリニック
見直しを行った機能	急性期
H30許可病床数からの削減数	10床
変更予定年月日	令和3年3月

1 地域の状況		
地域の現状と課題	周南医療圏では、分娩を扱う施設が、周南地区で9床の診療所1施設と52床の病院(周南市)1施設(周南市)、更に周産期母子医療センターのある徳山中央病院がある。そして光地区では34床の病院と30床の病院2施設があり、分娩に備えている。分娩は、少子化があり、周南市では令和元年月平均約80例(当院平均16件)であり、当院での分娩数を加えても3医療機関で充分処することが可能であり、『お産難民』は起こらないと考える。また、診療所では、新型コロナウイルス感染症妊産婦の診療経験もなく、設備面や能力面でも今は困難と考える。	
2 自施設の状況		
自施設の現状(変更前)	今まで分娩中心に産婦人科医療を一人で行ってきた。最近の特徴は、帰省分娩が多く、また高齢妊産婦さらに合併症妊産婦が多く、ハイリスク妊娠の頻度が高くなってきた。そこで、基本的に、新生児医療および産科医療は、緊急性・重症化が高いので、高度医療、更に関係各科におよぶ集学的治療が益々必要となってきており、一人で分娩を扱うのは危険が多すぎる。これに加え、現在は新型コロナウイルス感染症があり、診療所で対処するのは困難と考える。	
病床数の見直し	見直しの考え方	上記の現状、高度医療・集学的治療、一人での分娩取り扱い、さらに新型コロナウイルス診療および対策を行うのは困難と考える。今後は、欧米の分娩方法である、『妊婦健診は診療所で、分娩は病院で』も一方法と考える。
	対象の病棟・病床の概要	10床を0床とする
	入院患者への対応	令和2年6月から新規分娩の受け入れを止めている。
3 病床削減が地域医療構想の実現に資するものである理由		
理由	現時点では、産科医療で必要な急性期の病床数の減少が、妊産婦に不利益をもたらすことはないとする。複数の医師による周産期センター等での分娩が、新型コロナウイルス症妊産婦および通常の妊産婦に対しても、必ず有益なことになると考える。	

【参考：H30病床機能報告(周南保健医療圏の状況)】

病床区分		高度急性期	急性期	回復期	慢性期	休棟・廃止予定	介護保険施設移行予定	合計
報告	①H30(2018)現状	463	981	628	1,188	26	-	3,286
	②R7(2025)予定	463	961	683	1,059	27	93	3,286
構想	③R7(2025)必要数	223	745	842	737	-	-	2,547

④構想との差(H30)(①-③)	240	236	△ 214	451	-	-	713
⑤構想との差(R7)(②-③)	240	216	△ 159	322			619